

2026年度 東京都立大学大学院

経営学研究科 入学試験

(9月入試)

※公開している入試問題・解答・出題意図等について、私的利用以外の目的で複製・転載・転用することを一切禁じます。

博士前期課程 経営学プログラム

試験科目：【経営戦略論】

解答・出題意図等

経営戦略論における基本的理解、およびそれを基にした論理的な説明能力を問うている。

- 1 競争戦略論に関し、伝統的な理論に関する理解を有していること、及び近年の理論的発展に関する知識を有しており、その実務への影響を論理的に説明できることを問うている。
- 2 企業戦略論に関し、多角化という主要な概念に関する理解を有していること、及び多角化が企業価値を毀損するメカニズムを、基本的な理論を用いて複数の視点から論理的に説明できることを問うている。

試験科目：【経営組織論】

解答・出題意図等

経営組織における意思決定の基本的理解を、集団と組織に分けてそれぞれ問うている。

- 1 集団討論した際に、メンバーの平均的な結論に落ち着くのではなく、むしろより極端な結論に至ってしまうことを集団極性化と呼ぶ。こうした現象を現実の現象と照らし合わせながら理解し、それがなぜ生じるのかについて論理的に説明できる能力を見ることで、人間集団を理解する素地を検査している。
- 2 合理的な意思決定モデル、すなわち、組織における問題の認識から選択肢の生成・評価・採用に至るまでの連続的な流れと比較しながら、それとは対照的なゴミ箱モデルを説明できるかを見ることで、組織の意思決定モデルを統合的に理解しているかを問うている。

試験科目：【マーケティング】

解答・出題意図等

- 1 イノベーション普及理論とプロダクト・ライフサイクル（PLC）理論の対応関係を理解できているかを問うている。両理論を照らし合わせ、PLC のライフサイクル段階ごとに主要な顧客層の採用者カテゴリーを把握することで、この理解をマーケティング施策に生かすことが可能である。
- 2 （1）RFM 分析とデシル分析という、顧客データを使って顧客をセグメントに分類する手法に対する理解を問うている。購買金額という単一の指標だけではなく、購買頻度や直近の購買日からの経過期間などの指標を組み合わせることで、顧客の売上貢献度に加え、ロイヤルティなど顧客行動をより精緻に分析できる。

（2）図1の領域は、Rのスコアが低い、FとMが高い層である。すなわち、以前は頻繁にかつ高額の購買を行っていたが、最近は購買が途絶えている顧客群である。彼らはかつて優良顧客であったが、何らかの理由で離反・休眠状態に近づいている。その理由を理解し、再活性化を狙ったマーケティング施策を講じれば、再び優良顧客になってくれる可能性がある。

試験科目：【会計学】

解答・出題意図等

- 1 管理会計分野の重要論点である「事業部の業績評価」に関連して、事業部の業績評価の基本的な考え方、本社費・共通費の配賦に関する論点、事業部間の内部振替価格の論点について問う問題である。
- 2 「損益分岐点」に関連して、計算条件に基づいて複数製品を生産する場合の損益分岐点売上高を計算させる問題である。
- 3 「予算実績差異分析」に関連して、四分法に基づいて製造間接費の差異分析を行わせる問題である。

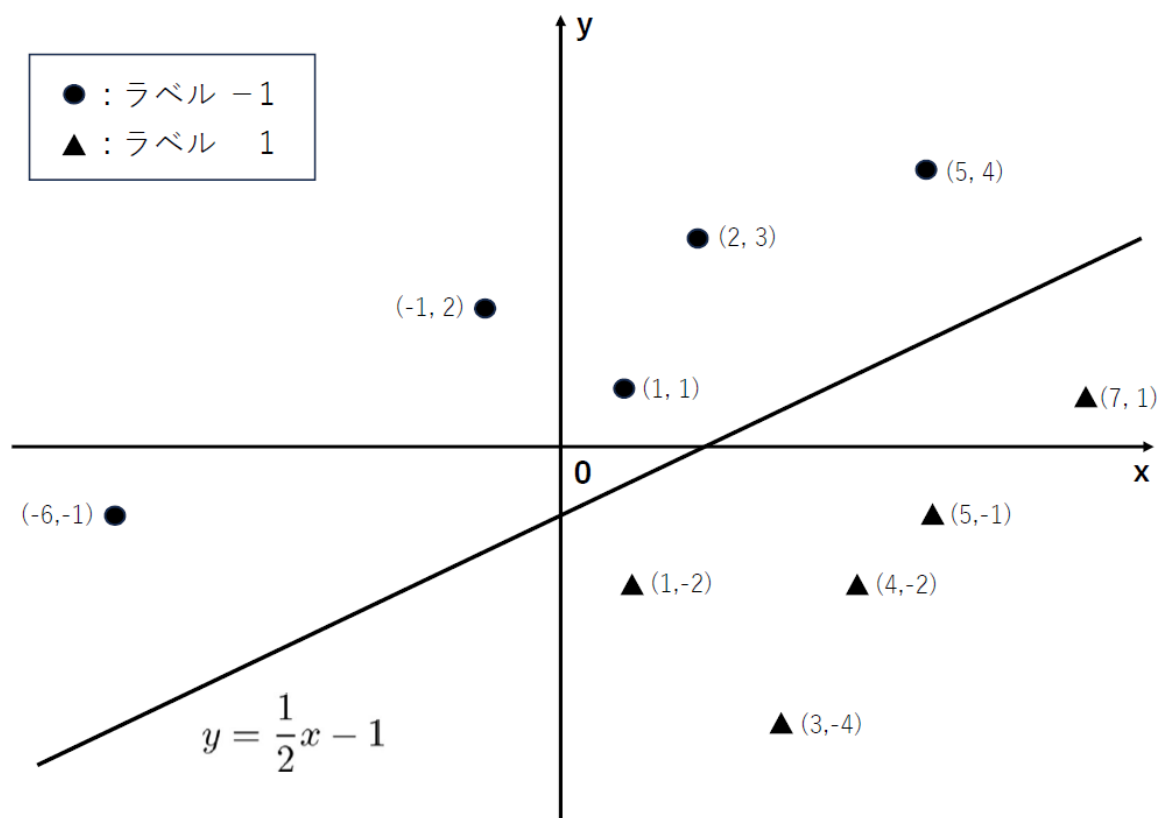
試験科目：【データサイエンス】

解答・出題意図等

1 サポートベクターマシンに関する基本的な問題である。各小問に対する出題意図および解答は以下である。

(1) データや直線を xy 平面に描くことで、それぞれの特徴を捉える能力を問うている。

(解答)



(2) 既存データの特徴に基づいて、新たな観測データに対する予測を行う能力を問うている。

(解答) ラベル： $t_{11} = 1$

(3) 点と直線の距離についての理解力を確認するための設問である。

(解答) 直線 ℓ 上の任意の点 (u, v) と点 (p, q) の距離 h は, $h = \sqrt{(u-p)^2 + (v-q)^2}$ である。また, 点 (u, v) は直線 ℓ 上の点なので, $v = \frac{1}{2}u - 1$ を満たすから, 距離 h の式に代入すると, 以下の不等式を得る。

$$h = \sqrt{\frac{5}{4}\left(u - \frac{4p+2q+2}{5}\right)^2 + \frac{1}{5}(p-2q-2)^2} \geq \sqrt{\frac{1}{5}(p-2q-2)^2} = \frac{\sqrt{5}}{5}|p-2q-2|$$

これより, $u = \frac{4p+2q+2}{5}$ のとき, 点 (u, v) と点 (p, q) の距離 h が最も小さな値をとるから, 直線 ℓ と点 (p, q) の距離は $\frac{\sqrt{5}}{5}|p-2q-2|$ となる。

(4) サポートベクトルおよびマージンといったサポートベクトルマシンにおける基本的概念に対する理解度を確認するための設問である。

(解答) サポートベクトル: v_3, v_6, v_{10} , マージン: $\frac{3\sqrt{5}}{5}$

2 数理統計に関する基本的な問題である。各小問に対する出題意図および解答は以下である。

(1) 母集団および標本についての理解度を確認するための設問である。

(解答) 母集団は「工場で製造された全ての製品」であり, 標本は「無作為に抽出された n 個の製品」である。

(2) ランダム標本についての理解度を確認するための設問である。

(解答) 抽出された n 個の製品は, 工場で製造された製品の中から無作為に選んできたものである。従って, $X_1, X_2, \dots, X_n$ は独立であり, それぞれ同一な分布に従うから, 大きさ n のランダム標本と見なすことができる。

(3) 標本平均および標本分散の定義を確認するための設問である。

(解答) 標本平均を $\bar{x}$, 標本分散を s^2 とすると, それぞれ以下で与えられる。

$$\bar{x} = \frac{1}{n} \sum_{j=1}^n x_j, \quad s^2 = \frac{1}{n} \sum_{j=1}^n (x_j - \bar{x})^2$$

試験科目：【数学】

解答・出題意図等

1

$$(1) f_x = 6x + 2y - 8 \quad f_y = 2x + 2y - 8$$

$$(2) x = 0, y = 4 \text{ で極小値は } -16$$

2

$Ax = b$ の形式：

$$A = \begin{pmatrix} 1 & 1 & 0 \\ 1 & 0 & 1 \\ 3 & 1 & 1 \end{pmatrix}, \quad x = \begin{pmatrix} x_1 \\ x_2 \\ x_3 \end{pmatrix}, \quad b = \begin{pmatrix} 3 \\ -1 \\ 4 \end{pmatrix}$$

逆行列：

$$A^{-1} = \begin{pmatrix} -1 & -1 & 1 \\ 2 & 1 & -1 \\ 1 & 2 & -1 \end{pmatrix}$$

解：

$$x = A^{-1}b = \begin{pmatrix} 2 \\ 1 \\ -3 \end{pmatrix}$$

3

$$(1) f(x) = \frac{2}{(x+1)^3} \quad (x \geq 0)$$

$$(2) \mathbb{E}[X] = 1 \quad (3) \sqrt{2} - 1$$

4

$$P(B \cap Y) = \frac{1}{8}, \quad P(Y) = \frac{3}{8},$$

$$P(Y^c) = \frac{5}{8}, \quad P(A|Y) = \frac{1}{9},$$

$$P(Y^c \cap B^c) = \frac{7}{12}, \quad P(Y^c|B^c) = \frac{7}{10}$$

博士前期課程 経済学プログラム

試験科目：【経済史】

解答・出題意図等

問題 1

1, 2とも、経営学専攻博士前期課程のアドミッション・ポリシー「入学者に求める能力」の「経済学（マクロ経済学，ミクロ経済学，計量経済学），数学・統計，経済史のうち，少なくともひとつの分野に関する専門的知識もしくは素養及び経済学全般にわたる広い知識」に基づき，経済史の専門的知識もしくは素養及び経済学全般にわたる広い知識を問うている。

- 1 「価格革命」として知られる大きな転換期を，単に歴史的事実を列挙するだけでなく，貨幣的要因と実物的要因との相互作用を読み解く経済学の素養とそれらを再構築する論理的思考力（批判的思考力も含む）を問うている。
- 2 いわゆる「第二次産業革命」として知られる時期の欧米諸国の産業構造転換についての知識を，またそうした転換を制度的背景から経済学的に解釈する論理的思考力（批判的思考力も含む）を問うている。

問題 2

- 1 明治期に起こった戦争（主として戊辰戦争、西南戦争、日清戦争、日露戦争）を想起したうえで、戦時・戦後の財政金融政策に関して具体的に説明する能力を求めている。
- 2 問題文の意図と表の内容を正確に読み取り、それらをもとに歴史的な知識と紐づけて論理的に記述する、分析力、論理的思考力、文章表現力を考査する。

試験科目：【数学】

解答・出題意図等

1

$$(1) f_x = 6x + 2y - 8 \quad f_y = 2x + 2y - 8$$

$$(2) x = 0, y = 4 \text{ で極小値は } -16$$

2

$Ax = b$ の形式：

$$A = \begin{pmatrix} 1 & 1 & 0 \\ 1 & 0 & 1 \\ 3 & 1 & 1 \end{pmatrix}, \quad x = \begin{pmatrix} x_1 \\ x_2 \\ x_3 \end{pmatrix}, \quad b = \begin{pmatrix} 3 \\ -1 \\ 4 \end{pmatrix}$$

逆行列：

$$A^{-1} = \begin{pmatrix} -1 & -1 & 1 \\ 2 & 1 & -1 \\ 1 & 2 & -1 \end{pmatrix}$$

解：

$$x = A^{-1}b = \begin{pmatrix} 2 \\ 1 \\ -3 \end{pmatrix}$$

3

$$(1) f(x) = \frac{2}{(x+1)^3} \quad (x \geq 0)$$

$$(2) \mathbb{E}[X] = 1 \quad (3) \sqrt{2} - 1$$

4

$$P(B \cap Y) = \frac{1}{8}, \quad P(Y) = \frac{3}{8},$$

$$P(Y^c) = \frac{5}{8}, \quad P(A|Y) = \frac{1}{9},$$

$$P(Y^c \cap B^c) = \frac{7}{12}, \quad P(Y^c|B^c) = \frac{7}{10}$$